

会議の開催結果について

- 1 会議名 令和6年度 第1回上尾市幼児教育推進協議会
- 2 会議日時 令和6年11月29日(金)
午後1時30分から午後3時00分まで
- 3 開催場所 上尾市役所7階大会議室
- 4 会議の議題
 - (1) 報告
 - ア 上尾市幼保小連携合同研修会について
 - イ 上尾市幼児教育推進協議会における施設の視察について
 - (2) 協議
幼保小の接続の現状と課題を踏まえた「架け橋期のカリキュラム」
モデルの作成について
- 5 公開・非公開 公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴者数 1名
- 8 問い合わせ先 上尾市教育委員会学校教育部指導課
048-775-9672

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第1回上尾市幼児教育推進協議会	
開催日時	令和6年11月29日(金) 午後1時30分から午後3時00分まで	
開催場所	上尾市役所7階 大会議室	
議長(委員長・会長)氏名	首藤 敏元	
出席者(委員)氏名	(1号委員) 首藤 敏元 (2号委員) 菅原 真弓 田中 由利子 (3号委員) 上松 なつみ (4号委員) 瀧沢 葉子 興野 邦孝	
欠席者(委員)氏名	(1号委員) 寺崎 恵子 (3号委員) 稲田 英明	
事務局(庶務担当)	【事務局】 学校教育部：瀧澤 誠 黒田 正司 指 導 課：武田 直美 濁川 究 吉野 竜一 【関係課】 保 育 課：佐藤 仁 小玉 優子	
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果
	【報告】 (1) 上尾市幼保小連携合同研修会について (2) 上尾市幼児教育推進協議会における施設の視察について 【協議】 幼保小の接続の現状と課題を踏まえた「架け橋期のカリキュラム」モデルの作成について	別紙のとおり
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 1名
会 議 資 料	・次第 ・(資料1) 令和6年度第1回上尾市幼・保・小連携合同研修会 実施報告 ・(資料2) 令和6年度上尾市幼児教育推進協議会における施設の視察 実施報告 ・(資料3) 協議資料 ・(参考資料1) 令和5年度第2回協議会 協議資料 ・(参考資料2) 令和5年度第2回協議会 会議録	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 7 年 / 月 8 日 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> 議長(委員長・会長)の署名 議長に代わる者の署名 (議長が欠けたときのみ) </div> <div style="text-align: center;">  <hr style="width: 200px; margin: 0 auto;"/> </div> </div>		

報告 (1) 上尾市幼保小連携合同研修会について

(2) 上尾市幼児教育推進協議会における施設の視察について

報告(1) 【事務局】	<p>令和6年度第1回上尾市幼・保・小連携合同研修会について報告いたします。お手元の資料1ページを御覧ください。</p> <p>令和6年8月2日(金)の午後2時から上尾公民館にて実施いたしました。実施内容といたしましては、二つの園の事例発表とグループ協議を行いました。グループ協議は、大きく二つの柱で協議を行いました。</p> <p>参加者については、上尾市立小学校から22名、上尾市立保育所・私立保育園から33名、私立幼稚園・認定こども園から16名、合計71名の参加がありました。</p> <p>参加者の感想を御覧ください。グループ協議アについて、グラフにもございますとおり、大変高い評価をいただきました。</p> <p>主だった感想をいくつか紹介させていただきます。</p> <p>小学校の先生方からは、「各園のカリキュラム、実態がよく分かった。」という感想を多くいただきました。また、「具体的な取組を知ることができた。」「(各園の先生と)直接話すことができよかった。」という意見も多くいただきました。対面での場があることに価値を感じている先生が多いことが分かりました。</p> <p>保育園の先生方からは、「他の園の取組を知ることができてよかった。」「小学校の先生と話す貴重な機会となった。」といった感想をいただきました。幼稚園の先生方からは、「卒園してからの様子を聞くことができてよかった。」「各園が大切にしていることを知れてよかった。」という意見をいただきました。取組の内容だけでなく、子供たちの姿で共有を図ることができた協議となりました。</p> <p>続いてグループ協議イについての感想を報告いたします。</p> <p>多くの肯定的な感想をいただきましたが、課題についても見えてまいりましたので、そちらも報告いたします。</p> <p>「協議の時間が足りなかった。」「カリキュラムの内容について、深めるところまでいかなかった。」「協議の視点をもっと明確にしてほしい。」といった御意見をいただきました。こちらは、今後の研修に生かしてまいります。</p> <p>研修会に参加された委員の皆様からは、「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を生かして、架け橋期のカリキュラムを考えていくことが大切である。」という御意見をいただきました。</p> <p>全体をとおして、それぞれの先生が、つながりをつくれたこと、遊びから学びへの接続を考えられたこと等、多くの成果が見られた研修会となりました。</p> <p>以上で報告を終わります。</p>
----------------	--

<p>感想・質問 【首藤委員長】</p>	<p>大変活発な協議になったということが分かります。 ただいまの事務局からの報告に、質問や御意見はございますか。</p> <p>よろしいでしょうか。では、続いて、幼児教育推進協議会における施設の視察について、事務局より報告をお願いします。</p>
<p>報告(2) 【事務局】</p>	<p>資料の12ページを御覧ください。こちらの視察は令和6年11月12日(火)に実施し、上尾市立大石北小学校の1年3組の授業を公開いただきました。</p> <p>授業公開後、委員の皆様から意見をいただきましたので、ここでも主だったものをいくつか報告させていただきます。</p> <p>授業者の大森教諭から、「1年生は、明るく元気である。期待感をもって入学し、とてもパワーがある子たちである。並ぶこと、話を聞くこと、トイレ、食事など、多くのことを幼稚園、保育園で学んできている。」といった入学当初のことについて話がありました。</p> <p>加えて、「発達の段階として、自分中心になる子が多かったが、夏休み明けあたりから、周囲のことを考えられるようになってきている。小学校の生活にギャップを感じている子もいる。」のような、時間が経過してからの1年生の様子もお話いただきました。</p> <p>委員の皆様からは、「小学校と保育園・幼稚園との交流」「幼稚園・保育園との引継ぎ」等の相互の交流や共有に関連する御意見をいただきました。</p> <p>さらに、「授業中の教師の適切な支援について」「時計などの日常生活について」「道具や人数などの環境について」も御意見をいただきました。</p>
<p>感想・質問 【首藤委員長】</p>	<p>授業を公開いただいたことで、1年生の様子を知るよい機会となりました。 ただいまの事務局からの報告に、質問や御意見はございますか。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、報告については以上とします。</p>

協議

幼保小の接続の現状と課題を踏まえた「架け橋期のカリキュラム」モデルの作成について

【首藤委員長】	次に、協議事項「幼保小の接続の現状と課題を踏まえた課題解決のための方策・手立てについて」にうつります。事務局より説明をお願いします。
【事務局】	<p>本協議会について説明いたします。資料の15ページを御覧ください。本協議会の趣旨は、諮問及び提言書アウトラインに基づいた提言書(案)の作成のため協議を行うことです。</p> <p>諮問として、</p> <p>①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした、幼保小の接続について</p> <p>②「架け橋期のカリキュラム」モデルの作成について</p> <p>この2点について意見を求められております。また、提言書のアウトラインが資料にあるとお示されています。</p> <p>これらに基づき、本日は、課題解決のための方策・手立てについて協議いただきます。</p> <p>現状は6点、課題は4点にまとめ、資料にお示しいたしました。課題解決のための方策・手立てについて、皆様の活発な協議をお願いいたします。</p> <p>そして、今後は、本日の協議も踏まえ、「架け橋期のカリキュラム」モデルを作成していきます。</p> <p>これらの協議内容については、今年度末に「提言書」としてまとめ、関係機関で共有し、幼児教育の充実を図っていく予定でございます。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
【首藤委員長】	<p>それでは、委員の皆様にも、課題解決のための方策・手立てについてお話しいただきたいと思えます。</p> <p>田中委員、教職員の「10の姿」への理解が不十分ではないかと課題①であがっていますが、どのような手立て・方策がありますでしょうか。</p>
【田中委員】	<p>10の姿を言えない先生がいるという課題はあります。日頃、私たちは「子供が楽しいかどうか」「それは、どんな活動によるものか」という目でみています。園児の姿から「10の姿が育っているだろう」という見取りです。学校でいう3学期にあたる時期は、次の段階を意識して保育しています。ただ、園で取り組んでいるものは、「遊び」という形のないものであることが前提です。</p> <p>そうした実態の中、課題①に対する手立てとして、無意識にやっていることを意識化していくことが考えられます。また、事例を共有するときに、同じものがあれば見やすいと感じています。例えば、10の姿が注釈として書かれているとか。</p> <p>いい事例を同じ目線で見してみる。若い先生も中堅の先生も一緒に見たり、</p>

	振り返ったりする。そうすることで、よい振り返りとなり、意識化していくことができると思います。
【首藤委員長】	若い先生方は、「10の姿」を大学で学んできていますね。だからこそ、どの先生もこの姿を観点としてもつことが大切です。
【田中委員】	園では、ケガがないように遊び、無事に帰ることが大切です。だから、常に「10の姿」を意識することはできないかもしれませんが、意識する場をつくることはできると思います。
【首藤委員長】	「10の姿」が共通言語になってほしいと思います。これまでは「3つのめばえ」でした。しかし、これは家庭での視点という意味が大きいです。今は、「10の姿」でつなげていくことが大切だと考えます。見取った子が同じ子でも、先生が捉えた「10の姿」は違うかもしれません。その見取ったイメージを共有することが大切になってくると思います。
【田中委員】	共通言語を使って話せば、相手もそれで返してくれるようになりますね。それを共有の場で生かしたらと思います。
【首藤委員長】	カリキュラムを共有したり、プログラムをつくったりするだけでは、イメージのずれまでは解消できません。 だから、擦り合わせる場を設ける必要がありますね。 そして、「10の姿」が到達目標ではないことも再度確認する必要があります。 課題①について、田中委員から御意見をいただきましたが、委員の皆様はいかがでしょうか。 (質問、意見等なし) それでは、次の課題です。 菅原委員、効果的な幼保小連携の在り方について、課題②としてあがっていますが、どのような手立て・方策がありますでしょうか。
【菅原委員】	公開保育を行うことが手立てになると思っています。 小学校の先生を招いて、保育の様子を参観していただく。その後、意見交換を行う。 このような取組を原市保育所、原市小学校では行っています。全ての保育所で実施できるわけではありませんが、このような共有の場を設けることが大切だと考えます。
【田中委員】	先日、鴨川小学校の校長先生とお話した際に、卒園式へお招きをしました。校長先生は、卒園式よりも、普段の様子を見たいと話していました。 例えば、就学時健診を見学させていただく、入学後の2weekの期間に参観する等、交流の機会を新たに設定するのではなく、いまある機会を生かしていく方法を考えたいです。 ちなみに、原市小の先生は毎回来てくれますか。

【菅原委員】	毎回来てくれます。1年生の先生を中心に、日常の保育を参観してもらっています。
【田中委員】	それは、素晴らしい取組だと思うので、私立の園に対しても伝えていきたいと思います。
【首藤委員長】	上松委員は、効果的な幼保小連携の在り方について、何か手立て・方策がありますでしょうか。
【上松委員】	私たちとしましては、日々の様子を見に来ていただきたいと思っています。同時に、小学校のことは見せていただきたいとも思っています。 具体的には、交流会ではなく、授業を体験できる場があればいいなと思います。45分という時間を園児たちが経験することで、小学校への心の準備ができるはずです。授業を受けることで、園児たちにとってよい刺激が与えられると考えます。
【首藤委員長】	確かにそのとおりですね。以前、平方幼稚園の園児が、平方小学校の道徳の授業を受けるという交流を行っていました。それぞれに無理のないように実施できればいいですね。 他に、課題②についての御意見や御質問はございますか。
【田中委員】	保育の中でも「30分」のような、まとまった時間を意識することはできそうです。机等の環境も、学校に近付けていくこともできます。 少人数なら大丈夫だけれど、20人のように多くなってくると、対応できない子もいます。園は、大人数の環境へ送り出すという意識をもつことも必要です。 学校へいったときに、環境面で困らないようにすることが大切です。そう考えると、交流会ではなく施設の見学の場合もあるといいですね。
【首藤委員長】	それでは、次の課題です。 瀧沢委員、中学校まで見通した連携の在り方が課題③としてあがっています。各園と中学校をつなぐ小学校のお立場として、どのような手立て・方策がありますでしょうか。
【瀧沢委員】	上尾市では、小中一貫教育に取り組んでおり、どの中学校区でも、共通のきまりをつくったり、小中の擦り合わせを行うための研修を行ったりしています。また、お互いに行き来して、授業を受けるということも行っています。 ただ、幼保から中までとなると、とても広いものになります。そうすると、具体的な目標というより、大きな抽象的な目標になると予想されます。 大きな枠の中で、共通の目標を立て、それを小中だけでなく幼保とも共有していくことが、課題に対する手立ての第一歩目だと思います。 やはり、遊びと学びの違いはあります。ある活動をしながら、「今日は数に興味をもった。」とか「今日は色に意識がいった。」というのではなく、「今日は数を学ぶ。」と決めて授業は行われます。そうした違いを伝えながら、小学校が「10の姿」を、もっと理解していくことも大切だと思います。
【首藤委員長】	小学校と中学校をつなぐ「10の姿」のようなものはあるのでしょうか。

【瀧沢委員】	それが学習指導要領であると捉えています。
【首藤委員長】	<p>確かにそうですね。幼保と小中をつなぐ指導要領はありませんが、「10の姿」があることは大きい。さまざまな特色のある園があっても、「10の姿」という共通の言葉で語ることができれば、よりスムーズに連携を図ることができるはずです。</p> <p>課題③についての御意見や御質問はございますか。 (質問、意見等なし)</p> <p>それでは、次の課題です。 興野委員、幼保小のカリキュラム共有ですが、学びや遊びの内容である「何をしたか」に留まっているということが課題④としてあがっています。何か手立て・方策はありますでしょうか。</p>
【興野委員】	<p>各学校で作成している「グランドデザイン」を共有することは、手立てになると考えます。 グランドデザインには、学校が目指す大きな目標が描かれています。その内容も含めた研修を行うことも大切です。 入学説明会の資料と併せて、保護者だけでなく園に配ることもできます。 そうした、大きな目標を伝えた上で、内容を共有することが必要です。内容を伝える際には、つまずきやすいポイントに焦点化して伝えることが求められます。幼保小合同研修会の際に、「〇〇でつまずく子が多いから、そこについて協議しよう。」という場を設定するのも一つの手立てになると思います。 例えば、体育で考えたとき、幼保では、鉄棒をあまりやらないように感じています。もちろんやっている園もあると思いますが、小学校へ来て初めてやる子も多いようです。そうした子たちに、「やってみたい」と思えるような工夫を学校はしているの、そうした掲示物のような環境の工夫を共有していくことも大切ではないでしょうか。そして、活動を共有するだけでなく、小さいうちから感じてほしい感覚も共有できたらいいと思います。</p>
【首藤委員長】	<p>ありがとうございました。体育という具体的な切り口で分かりやすく御意見いただきました。 課題④についての御意見や御質問はございますか。</p>
【田中委員】	鉄棒をやっている園もあれば、園庭がない園もあります。実態に違いがあるからこそ、連携することが求められます。
【首藤委員長】	<p>経験の差が大きいことは仕方ないことです。 ですが、1年生では幼保の経験を生かして、生活科を中心に合科的な学びを展開しています。つまり、小学校教育の入口は、幼保にあるのです。</p>
【瀧沢学校教育部長】	上尾市では、小中一貫教育の中で、目指す児童像・生徒像を明確にしています。幼保小の連携についても、同様にイメージや姿を共有していくことが大切であると考えています。

【首藤委員長】	<p>グランドデザインの中に、小中一貫の視点だけでなく、幼保との連携についても位置付けていけるといいですね。</p>
【田中委員】	<p>少し協議とは異なるかもしれませんが、自己肯定感をもって小学校へ進んでほしいと思っています。</p> <p>低学年で心がつまずいてしまうと、楽しくなくなってしまいます。自己表現を受け入れてもらえる環境、支援員さんのように丁寧にみてもらえる環境があることも大切です。</p> <p>各校の環境を見て回るツアーのようなものがあつたらいいのに、と思うこともあります。</p>
【首藤委員長】	<p>1年生の教室に絨毯・マットのようなものがあり、そこに座って読み聞かせをする場面を見たことがあります。もちろん先生は笑顔です。それらも環境です。カリキュラムだけでなく、施設、環境、人、についても考えていくことが必要ですね。</p> <p>本日、欠席となっている委員からは、意見書が届いていますでしょうか。事務局より発表してください。</p>
【事務局】	<p>本日欠席の、寺崎副委員長、稲田委員より、意見書をいただいておりますので、発表させていただきます。</p> <p>【寺崎副委員長より】</p> <p>上尾市ならではのカリキュラム・モデルとは。</p> <p>毎年行われている合同研修会では小学校区ごとのグループに分かれて話し合っている。その内容を具体的にカリキュラムの内容に組み入れられるだろうか。</p> <p>地域・地区の実情がさまざまであることを活かしたカリキュラムづくりが求められている。</p> <p>架け橋プログラムでは、幼児施設と小学校との関係に加えて、地域ぐるみで子どもの育ちを考え合うことが要とされている。各小学校区の地理的・社会的な特徴も入るだろうか。</p> <p>スタート・カリキュラムでは、幼児施設での具体的な活動を把握して共通点と相違点をつかむ</p> <p>生活時間について。例えば、幼児施設では朝の会(集会)を一日の流れのどこに・どのように行っていたのか。</p> <p>生活空間については、保育室・トイレ・手洗い場・下駄箱・職員室・給食室などの配置から、生活上の子どもの動線はどのようになっていたのか。幼児施設では、どのような遊びをしていたのか。ここから学習の糸口が見つかる。</p> <p>幼児施設ではどのような活動をしていたのか(飼育・栽培のお当番や日直、行事等も含む)「幼児施設でやっていたこと」を子どもたちに話し合ってもらおう中で「(幼児施設との違いに・小学校で)困っていること」を1年生学級で</p>

	<p>挙げるなどを行う事例もある。</p> <p>いわゆる10の姿が到達目標ではなく方向目標であることは、小学校の方がわかりにくいのではないか。できないこと(できていないこと)を把握して、できる(ようになる)姿にとらえるまえに、一人一人の持ち味から学びに向かう(過程にある)今の姿をとらえる。</p> <p>【稲田委員より】</p> <p>滑らかな接続のために、当園ではひらがなの読み書き、正しい鉛筆の持ち方を指導しています。また、年長児は坐禅の時間があり、集中力の持続を長くすることにも取り組んでいます。</p> <p>その他、小学校の先生から以前に聞いている就学までに、できるようにしてほしいことを在園中にできるように取り組んでいます。</p> <p>架け橋期のカリキュラムだけでは伝わらないことがあるので、小学校に先生と幼稚園側の職員が話しあえる場があると良いです。また、園側の職員が小学校の授業を参観する機会はあるが、小学校の先生が幼稚園や保育園の保育を参観する機会がないので、その機会を作れると良いと思います。</p> <p>欠席の委員の方の御意見は以上です。</p>
<p>【首藤委員長】</p>	<p>活発な協議をいただきありがとうございました。皆様から、多くの手立て・方策が出されました。これらを踏まえて、提言書をまとめていきたいと思っています。</p> <p>以上で、協議を終了いたします。皆様の御協力に感謝申し上げます。</p>